Chitoria ulupi DOHERTY の台湾産一新亜種について

成　富　安　信[1)]

On a new subspecies of *Chitoria ulupi* DOHERTY from Formosa, China (Lepidoptera; Nymphalidae)

By YASUNOBU NARITOMI

台湾に，所謂タイワンコムラサキに近似の別種が産することは，かなり以前から一部の人に知られていた様であるが，近年これが相当数採れるようになり，筆者もその雌雄数頭を入手して詳細に検討した結果 ***Chitoria ulupi*** の新亜種と考えられるので以下に記載するものである．なお本稿を草するに当り，従前に変らず懇篤なる御指導を賜り或はまた貴重な文献の閲覧を許された中原和郎博士および黒沢良彦氏に本紙面をかりて深謝の意を表する．

Chitoria uliupi arakii subsp. nov.

ホウライコムラサキ（新称）

雄． 表面：地色は黄褐色であるが前後翅とも黒帯が広く，為に著しく暗い感じをうける．前翅は，翅端の部分（こゝに小白紋2個を含む）と中室外半部から第2室の黒紋（タイワンコムラサキやシラギコムラサキでは明瞭）上を通って斜に後縁角に至る帯状の部分（前縁に近いところ程巾が広い）および後縁基半部（これは上記帯状部分と後縁角附近で鋭角に接続する）の3個所が，いづれも黒褐色をなし特に中室の外半部が濃色である．なお細い黒帯が第4室を斜に横切って走り，第4脈と第5脈とを結んでいる．

後翅は前縁に巾広い黒帯がある．また各室の外縁寄りにある黒色円紋列は拡大して融合する傾向にあり，この紋列が前縁の黒帯ともつながり，また内縁角附近では第2室の眼状紋のまわりに地色の黒褐色の環を残して黒くとりかこみ内縁につながる．（個体によっては内縁角附近の黒色部の稍々少いものもある．）

裏面：前翅の前半部（主に翅端―この中に小白紋を含む――および中室外半部）並に後翅全面は，地色が銀緑色で特に後翅の前縁および内縁附近に於て銀色が強い．前翅後半部では，中室外半部の斜帯に続いて前翅中央附近から発する黒褐色帯があって後縁角附近で鋭角に曲り，第1室附近基半部から発する淡黒帯と接続しているが，これと外の部分の地色は黄褐色である．なお第2室の黒色円紋は表面より一きわ濃く明瞭である．後翅の中央部の橙褐色条は，その外側に之より巾広く不鮮明な銀白帯を伴って体と平行に後翅を縦貫し，中室端附近で僅かに外側に彎曲し内縁角附近に於て地色にとけこんでいる．更にその外側の外縁との中間辺に各室毎に小さな銀白紋がある．このうち第2室のものは眼状紋となっている．また亜外縁に不鮮明な褐色の細条がある．

雌． 表面：雄と異りタイワンコムラサキの雌によく似て前後翅とも中央附近に白帯があり，その外側は地色黒色その内側は濃緑青色を呈する．前翅は横脈の外側と第1a室から第3室中央部（第3室のは痕跡状）にかけてとくに巾広い白帯（後者は弧状）があり，翅端部に大小2個の円形白紋を，また第2・3室外部にも白色円紋（第2室のは黄色を帯びる）を備える．後翅も中央部を縦貫してV字状の白帯があり，その内側の輪郭は明瞭でない．白帯の外側に之と平行に少し離れて微小黄白紋列がある．亜外縁の不鮮明な橙色弦月紋と並んで，外縁に各室毎に小白斑があり，このうち第6・7室のものは大きい．

裏面：表面と同じ場所に白帯があり，前翅前半部と後翅全面の地色は銀灰色である．前翅の第2室に黒色円紋があり，そのまわりにごく細い黄褐色環を有する．横脈附近は広く濃褐色を呈しこの部分から後縁角にかけて，第2室の黒紋をとりかこむようにして巾広い黒褐色帯があり，後縁角附近で曲って内縁基部に達している．後翅は中央を通る白帯がほゞ直線状でその内側に沿って半分位の巾の黄褐条があり，いづれも後縁角に近づくに従い細くなる．これら帯条の外側に小白紋列があり，そのうち第1室のものは眼状紋をなすが雄と同じく小さい．

1） 東京都中央区晴海町2号館506号

胴は雌雄とも背面は黒色で腹部に緑黄色の細毛を密生し（雌では毛が殆どない）腹面は白色である.

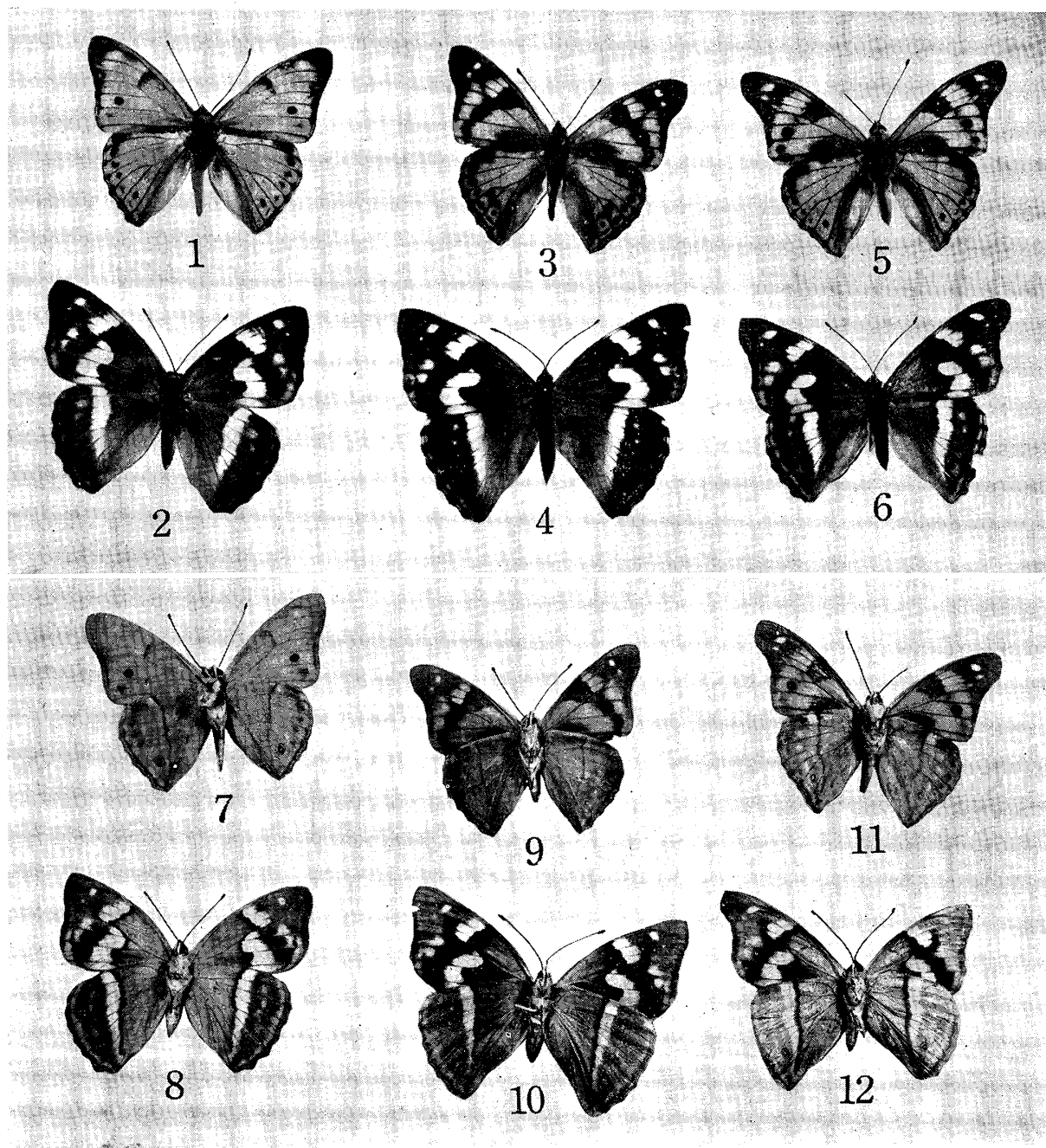
展張. ♂ 59 mm. ♀ 71 mm.　産地. 台湾（中部山地）　完模式標本：♂ 新高山腹，1957年7月28日採集；副模式標本：♀ 埔里附近，1958年7月4日採集；別模式標本：4♂♂，以上筆者所蔵.

なお本亜種は所謂タイワンコムラサキとは相当顕著な差異があり（特に雄に於て），寧ろ朝鮮産のシラギコムラサキによく似るが，これら三者の比較表を以下に示す.

表1：雄

差別点	ホウライコムラサキ *Ch. ulupi arakii*	シラギコムラサキ *Ch. ulupi morii*	タイワンコムラサキ *Ch. chrysolora*
1．前翅端の突出及び大きさ	突出は少ない（展張 59 mm）	著しく突出する（展張 66～68 mm）	最も突出少い（展張59～60 mm）
2．表面色彩	黒帯が濃黒褐色で巾広し，暗い感じをうける	前翅の黒帯の広さはホウライと同様だが淡黒褐色，後翅は著しく黒色部少い	前後翅とも最も黒帯が少く，黒いのは翅端部の狭い範囲のみ
3．表面前翅．中室外半部から後縁角に至る黒帯	巾広く且濃色で第2室の円紋もその中にとけこんでいる	中室端のみ濃いがその他は殆ど消失し帯状に至らず，第2室の円紋はかなり明瞭	黒帯無く僅かに横脈上の黒条と第2室に明瞭な黒色円紋あるのみ
4．表面前翅．3の黒帯と翅端とを結び第4室の黒条	明瞭にある	殆ど認められない	この附近に黒条は全くない
5．表面前翅．第1室基半部の黒褐斑	濃く明瞭	稍淡いが明瞭	殆ど無し
6．表面後翅．外方の黒色円紋列	著しく拡大し特に後縁角附近から内縁にかけての後半部が黒く，又前縁部の黒帯とも融合する	前縁附近のみ巾広いが後半部にかけての黒紋は次第に小さくなりタイワンコムラサキに近い	全体に黒紋は小さい
7　裏面色彩	前翅前半部と後翅が銀緑色で前翅後半部等に黄褐色の部分を残す．前翅中室端から後縁角にかけて濃褐色帯あり	概ねホウライと同じだが前翅中室端から後縁角にかけての褐色帯をはじめ全体に淡色	地色は一面に黄褐色で銀緑を帯びることがない
8．裏面前翅．第2室の黒紋	大きくて中に白点がある	小さくて中に白点のあるものが多い	小さくて中に白点がない
9．裏面後翅．第1室の眼状紋	極めて小さくしかも黒紋中の白点が大きいため黒色の部分はごく少い，外周の黄色環は極めて不明瞭	概ねホウライと同じ	黒紋大きく中の白点が小さい外周の黄色環は黒のふちどりをもち明瞭

表2：雌（但しタイワンコムラサキは白色型を比較）

差別点	ホウライコムラサキ	シラギコムラサキ	タイワンコムラサキ
1．前翅端の突出	殆ど突出せず	雄程でないがかなり突出する	殆ど突出せず
2．表面白帯の色	白	白で幾分紫色を帯びる	白で幾分黄緑色を帯びる
3．表面前翅．白帯の形状	全体に最も巾広く明瞭第2室の白帯は横長第3室基部の白帯は痕跡状	全体に巾狭し各室毎に分離する第2室の白帯は第1室のもの丶内側に位置す第3室基部に白帯現れず	全体に巾広く明瞭第3室基部の白帯は小さいが明瞭に現れる
4．表面前翅．第2室の黒色円紋	殆ど地色にとけ込み第2室には白色円紋のみ明瞭	黒紋は稍現れ，隣接する白紋は黄色を帯びる	黒紋は一層明瞭で，隣接する白紋が押されて縮少している
5．表面後翅．白帯の形状	殆ど直線状で内側の境界不鮮明	外側が中央辺で外方に彎曲，輪郭は明瞭	中央辺がふくらんだ感じで彎曲し輪郭は明瞭
6．表面後翅，第7・8室外縁の白紋	大きく明瞭	稍不明瞭	消失
7．裏面地色	全面が概ね銀灰色	全面銀灰色で，前翅後半部の白帯が紫色をおびる	外半部が黄緑色，内半部は淡色
8．裏面前翅．横脈上から後縁角に至る黒帯	濃色で巾広い	色稍淡く巾狭い	横脈辺は黄褐色だが最も狭く後半部には殆ど黒色部無し
9．裏面前翅．第2室の黒色円紋	大きく，外周の黄色環は狭くて不明瞭	小さく，外周の黄色環は稍広いが不明瞭	小さく，中に小白点があり，外周の黄色環はふちどりがあって明瞭
10．裏面後翅．第1室の眼状紋	黒紋小さく中の白点は大きいので黒色の部分はごく少い，外周の黄色環も細く不明瞭	黒紋小さく中の白点は大きいが外周の黄色環は稍広い	黒紋大きく中の白点は小さい外周の黄色環は狭いがふちどりされ明瞭

Figs. 1（表面）， 7（裏面） *Chitoria chrysolora* FRUHSTORFER ♂

Figs. 2（表面）， 8（裏面） *Chitoria chrysolora* FRUHSTORFER ♀

Figs. 3（表面）， 9（裏面） *Chitoria ulupi arakii* subsp. nov. ♂

Figs. 4（表面），10（裏面） *Chitoria ulupi arakii* subsp. nov. ♀

Figs. 5（表面），11（裏面） *Chitoria ulupi morii* SEOK ♂

Figs. 6（表面），12（裏面） *Chitoria ulupi morii* SEOK ♀

後　　記

1．本亜種名は敬愛する蝶友荒木三郎氏に献げたものである．

2．従来から知られて来た所謂タイワンコムラサキは，Le MOULT 氏（1950）がそうした通り，種 *ulupi* と別個の独立種 *Chitoria chrysolora* FRUHSTORFER として扱うべきものと考えられる．

3．なお本亜種に近似のものとしては，同じ，*Ch. ulupi* の亜種で西部シナ方面から知られる subsp. *fulva* LEECH および subsp. *dubernardi* OBERTHÜR があるが，之らは標本が入手できなかったので本文中に論及しなかった．然し文献（SEITZ, LeMOULT, LEECH, SEOK 等諸氏の著述）に現われたものによって比較すると，*fulva* は黒斑が *morii* より更に淡色で *chrysolora* との中間に位するものであり且形が *morii* よりも大きい点で，*dubernardi* は黒斑が最も広くまた後翅の斑紋が異る点で，いづれも本新亜種と明瞭に区別されうるものと思われる．

Résumé

Chitoria ulupi arakii **subsp. nov.**

(Figs. 3, 9, ♂ ; Figs. 4, 10, ♀)

A new subspecies occuring in Central Formosa.

This new subspecies, which is distinctly different from *Ch. chrysolora* as the well developing of the black spots on its both side of wings, is rather closely resembled *Ch. ulupt morii* occuring in Korea but is easily distinguished from it in the following respects.

1. On the wing shape, the apex of foreings is not prominent as *morii*, then the size is smaller.
2. In male, the dark brownish area of forewings is much broader and the colour is darker. Furthermore, at space 4, this new one appears a black oblique band which is absent in *morii*. The series of black spots on the outer part of hindwings are remarkably extended, especially near hindwings beneath the black space is wider.
3. In female, the white band of upperside is much broader and is neither separated by every black vein nor turning purple. Moreover on hindwings, the inner outline of this band is not distinct.

Length of forewings : ♂ 59 mm, ♀ 71 mm. Habitat : Central Formosa.

Holotype : ♂, Mt. Morrison, 23. vii. 1957 ; Allotype : ♀, Puli 4. vii. 1958 ; Paratypes : 4 ♂♂.

Chitoria chrysolora, which has hitherto mostly been treated as a subspecies of *Ch. ulupi* DOHERTY, seemes to be entirely different species of *ulupi* as Mr. Le MOULT (1950) classified.

キスジシロフタヲ (*Epiplema cretacea* BUTLER) の幼虫

児　玉　　行[1)]

The larva of *Epiplema cretacea* BUTLER (Epiplemidae)

By TUYOSI KODAMA

従来邦産 *Epiplema* 属の幼虫は全く不明でその食草すら知られてなかったが，原色日本蛾類図鑑（上；保育社）により本著に記すキスジシロフタヲの食草が始めて明らかにされた．しかし幼虫の形態は全く不明であり筆者が1957年6月上旬那智山（和歌山県）・保色山（三重県）でヒメユズリハ・ユズリハから採集したキスジシロフタヲの幼虫の形態を調べて見るとその chaetotaxy は甚だ興味がある．依ってこの幼虫の形態を明記する．刺毛の命名は六浦晃氏のによって記する．

1）堺市大仙町　大阪府立大学農学部昆虫学教室